

リソースプロパティ変更機能

1. 概要	2
2. リソースプロパティ変更機能を使用した帳票の出力	3
3. RPX エディタ	8
3-1. RPX エディタ起動方法	8
3-2. RPX ファイル編集に必要な帳票資源ファイル	8
3-3. 画面説明	8
3-3-1. RPX ファイル編集ダイアログ	8
3-3-2. 新規作成ダイアログ	10
3-3-3. フォント一括設定ダイアログ	11
3-3-4. フォーム追加ダイアログ	12
3-3-5. テキスト変数追加ダイアログ	12
4. 制限事項・注意事項	14
4-1. 制限事項	14
4-2. 注意事項	14

1. 概要

リソースプロパティ変更機能は、予め用意された設定ファイル（RPX ファイル）を使用してランタイム実行時にテキスト変数のフォント種別、出力データを変更して帳票を出力する機能です。

Form ファイルを直接編集することなくランタイム実行時に動的にフォント種別、出力データ変更することで、1 つの form ファイルを使用して日本語用の帳票や中国語用の帳票を出力することができます。

なお、RPX ファイル（.rpx）の編集は RPX エディタを使用して行います。RPX エディタの詳細は「3. RPX エディタ」を参照してください。

2. リソースプロパティ変更機能を使用した帳票の出力

ここでは実際にリソースプロパティファイルを使用したサンプル帳票の出力確認を行います。ここで使用するサンプル帳票では、1つのFormファイルを使用して中国語の帳票と日本語の帳票を出力します。

まず始めに、リソースプロパティ変更機能を使用した中国語の帳票出力を確認します。サンプル帳票は”Create!Form導入ディレクトリ¥tut¥rpx”という作業ディレクトリに保存されています。まずは、作業ディレクトリに移動しましょう。

◆◆ 操作 ◆◆

Designマネージャのディレクトリツリーより”Create!Form導入ディレクトリ¥tut¥rpx”をクリックします。

作業ディレクトリが移動しました。

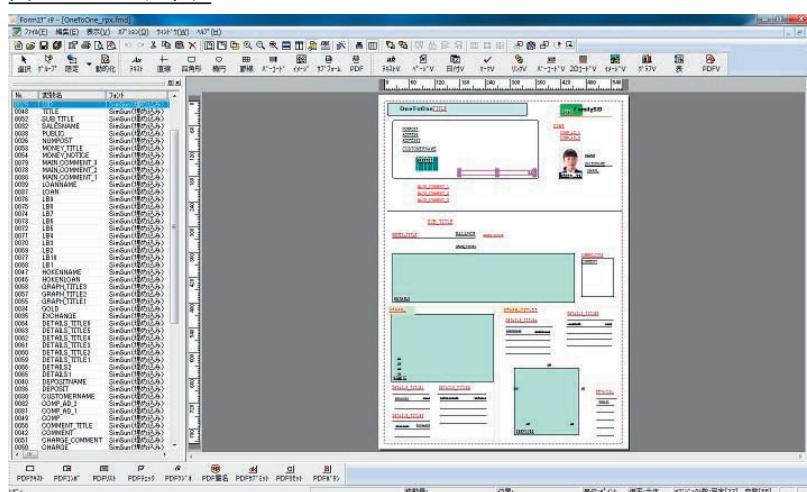
次に、Formファイルを確認します。サンプル帳票のFormファイルをエディタで開きます。

◆◆ 操作 ◆◆

- ① プレビューエリアより”RPXサンプル”をクリックして選択します。
- ② Designマネージャのツールボタン[フォーム編集]をクリックします。

Formエディタが起動してサンプル帳票のレイアウトが表示されます。

図：Formエディタ



入力データ(.csv)からデータ取得するテキスト変数のフォント色は”黒”、RPXファイルからデータ取得するテキスト変数のフォント色は”赤”で設定されています。また、全てのテキスト変数のフォント種別に中国語(簡体)フォント”SimSun(埋め込み)”が設定されていることを確認してください。

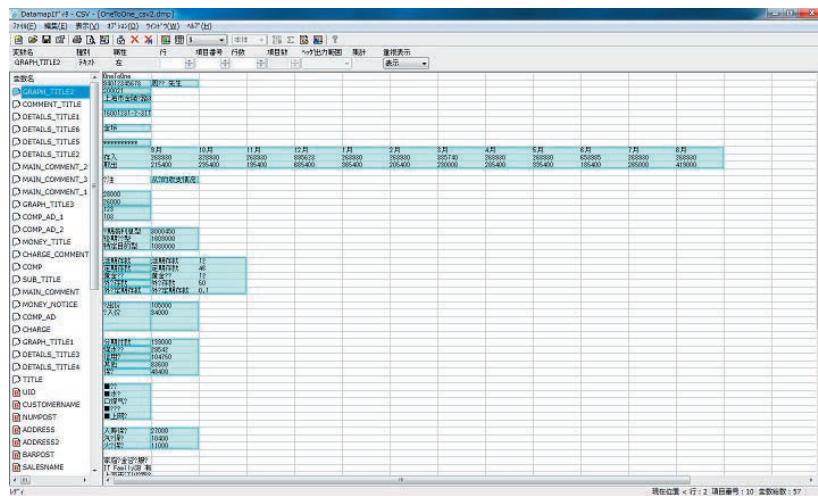
次に、DataMapファイルの確認を行います。サンプル帳票のDataMapファイルをエディタで開きます。

◆◆ 操作 ◆◆

- ① プレビューエリアより、" RPX サンプル" をクリックして選択します。
- ② Design マネージャのツールボタン [データマップ編集] をクリックします。

Datamap エディタが起動してサンプル帳票のデータマップファイルが表示されます。

図 : Datamap エディタ



このデータマップファイルでは、マッピングされていないテキスト変数が確認できます。このマッピングされていないテキスト変数が、RPX ファイルからデータ取得して出力を行うテキスト変数です。

※ 注意

RPX ファイルで「出力データ」を設定するテキスト変数は、データマップでマッピングを行なわず、保存時に「未定義変数を保存する」を選択して保存してください。

次に、RPX ファイルの確認を行います。サンプル帳票の中国語出力用 RPX ファイル "china.rpx" を RPX エディタで開きます。

◆◆ 操作 ◆◆

Design マネージャのデータファイルリストから "china.rpx" を選択してダブルクリックします。

RPX エディタが起動して "china.rpx" の設定内容が表示されます。

図：RPX エディタ



Form ファイル上でフォント色”赤”で設定されたテキスト変数（マッピングされていないテキスト変数）に中国語の「出力データ」が設定されていることを確認することができます。

次に、サンプル帳票の PDF 出力イメージを確認します。

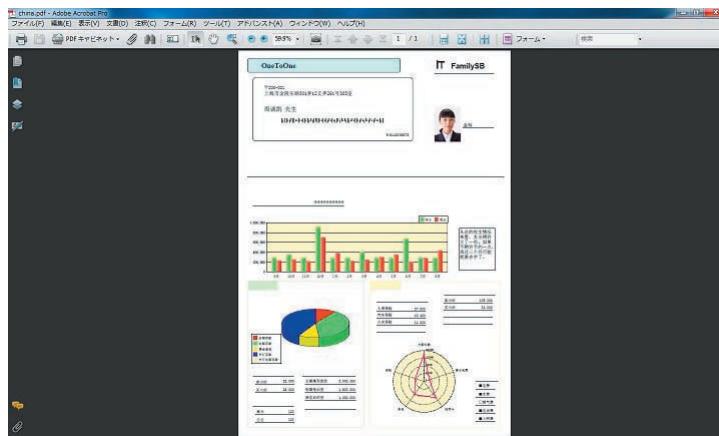
まず、RPX ファイルを設定しない状態でサンプル帳票の PDF 出力イメージを確認します。

◆◆ 操作 ◆◆

- ① Design マネージャのデータファイルリストから”china.csv”を選択、プレビューエリアから”RPX サンプル”をクリックして選択します。
 - ② Design マネージャのツールボタン〔実行〕をクリックして実行ダイアログを起動します。
 - ③ 実行ランタイムに”FormCollect”が選択されていることを確認して、〔プレビュー〕ボタンをクリックします。

サンプル帳票の PDF 出力イメージが表示れます。Form ファイル上でフォント色“赤”で設定されたテキスト変数（マッピングされていないテキスト変数）にデータが出力されていないことが確認できます。

図：プレビュー



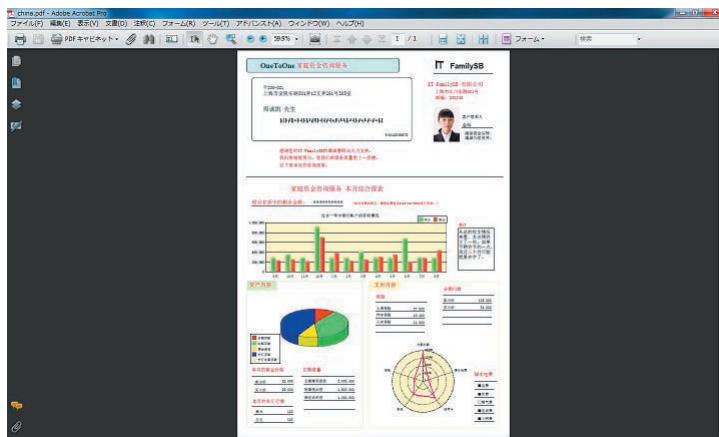
次に、RPX ファイルを設定した状態でサンプル帳票の PDF 出力イメージを確認します。

◆◆ 操作 ◆◆

- ① Design マネージャのデータファイルリストから "china.csv" を選択、プレビューエリアから "RPX サンプル" をクリックして選択します。
- ② Design マネージャのツールボタン [実行] をクリックして実行ダイアログを起動します。
- ③ 実行ダイアログのオプションタブを選択して "RPX ファイル" にチェックを入れ、ファイル名の参照ボタンからファイル選択ダイアログを起動し "china.rpx" を選択して [OK] ボタンをクリックします。
- ④ RPX ファイルのファイル名に "china.rpx"、実行ランタイムに "FormCollect" が選択されていることを確認して、[プレビュー] ボタンをクリックします。

サンプル帳票の PDF 出力イメージが表示れます。Form ファイル上でフォント色 "赤" で設定されたテキスト変数（マッピングされていないテキスト変数）に RPX ファイルで設定された「出力データ」が出力されていることが確認できます。

図：プレビュー



続いて、同じサンプル帳票を使用して日本語の帳票出力を確認します。

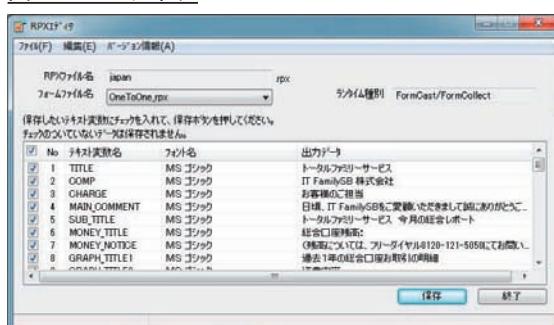
まず、日本語出力用 RPX ファイル "japan.rpx" を RPX エディタで開きます。

◆◆ 操作 ◆◆

Design マネージャのデータファイルリストから "japan.rpx" を選択してダブルクリックします。

RPX エディタが起動して "japan.rpx" の設定内容が表示されます。

図：RPX エディタ



Form ファイル上でフォント色”赤”で設定されたテキスト変数（マッピングされていないテキスト変数）に日本語の「出力データ」が設定されていることを確認することができます。また、全てのテキスト変数の「フォント名」に日本語フォント”MS ゴシック”が設定されていることを確認することができます。

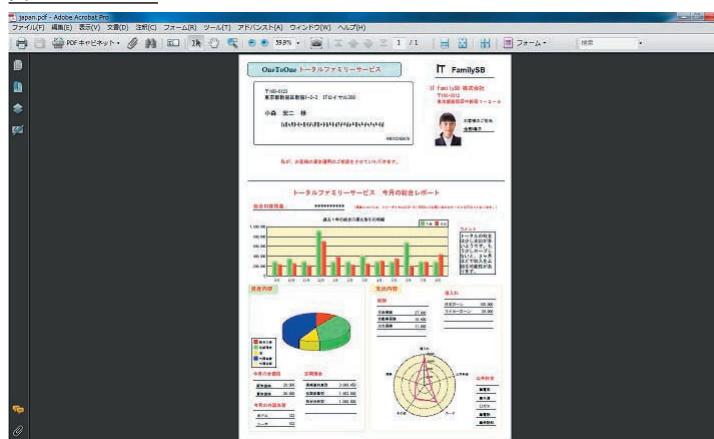
最後に、”japan.rpx”を設定した状態のサンプル帳票の PDF 出力イメージを確認します。

◆◆ 操作 ◆◆

- ① Design マネージャのデータファイルリストから”japan.csv”を選択、プレビューエリアから”RPX サンプル”をクリックして選択します。
- ② Design マネージャのツールボタン【実行】をクリックして実行ダイアログを起動します。
- ③ 実行ダイアログのオプションタブを選択して”RPX ファイル”にチェックを入れ、ファイル名の参照ボタンからファイル選択ダイアログを起動し”japan.rpx”を選択して【OK】ボタンをクリックします。
- ④ RPX ファイルのファイル名に”japan.rpx”、実行ランタイムに”FormCollect”が選択されていることを確認して、【プレビュー】ボタンをクリックします。

サンプル帳票の PDF 出力イメージが表示れます。Form ファイル上でフォント色”赤”で設定されたテキスト変数（マッピングされていないテキスト変数）に RPX ファイルで設定された日本語の「出力データ」、その他のテキスト変数に”japan.csv”のデータが出力されていることが確認できます。

図：プレビュー



3. RPX エディタ

RPX エディタはリソースプロパティ機能で使用する RPX ファイルを作成するツールです。また、既存の RPX ファイルを開くことで、保存されている内容を編集することもできます。

3-1. RPX エディタ起動方法

RPX エディタは Design マネージャのメニュー [ツール]-[RPX エディタ] から起動できます。ただし、Design マネージャで作業ディレクトリが選択されていない場合、RPX エディタを起動することはできません。

3-2. RPX ファイル編集に必要な帳票資源ファイル

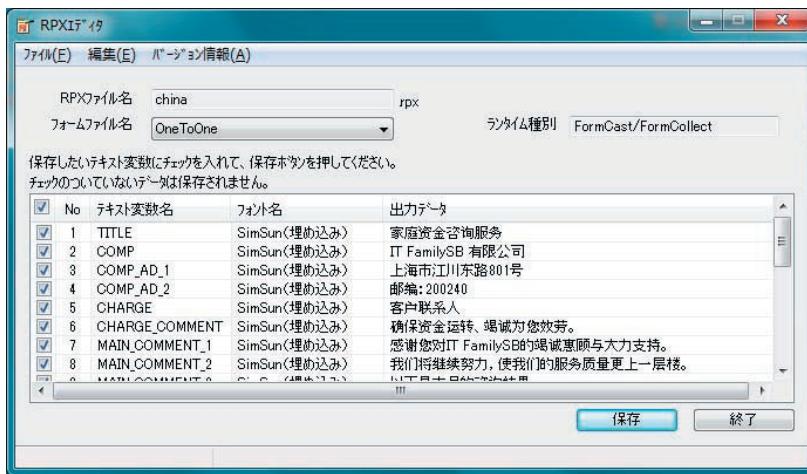
- ・ジョブファイル
- ・Form ファイル

3-3. 画面説明

ここでは RPX エディタの画面説明を行います。

3-3-1. RPX ファイル編集ダイアログ

図: RPX ファイル編集ダイアログ



[RPX ファイル名]

RPX ファイルのファイル名を表示します。RPX ファイル新規作成時は RPX ファイル名が確定していないため “--” が表示されます。

[フォームファイル名]

リソースプロパティ機能を設定するフォームファイル名を表示します。設定可能なフォームをコンボボックスから選択することができます。新規作成の場合はジョブファイルに登録されている全てのフォームがコンボボックスに追加されます。RPX ファイルを開いた場合は、RPX ファイルに記録されている全てのフォームがコンボボックスに追加されます。

[ランタイム種別]

新規作成時に選択したランタイムの種別を表示します。ランタイム種別を変更することはできません。

■テキスト変数リスト

[チェックボックス]

RPX ファイルに保存するテキスト変数にチェックをつけます。チェックのついていないテキスト変数は保存されないため、注意してください。リストタイトル上にあるチェックボックスにチェックをつけると、全てのチェックボックスに対してチェックをつけることができます。

[No]

テキスト変数の通し番号が表示されます。

[テキスト変数名]

[フォームファイル名] に表示されているフォームのテキスト変数名を表示します。新規作成の場合はフォームファイルに保存されている全てのテキスト変数が表示されます。RPX ファイルを開いた場合は、RPX ファイルに保存されているテキスト変数のみが表示されます。

[フォント名]

出力時に使用するフォントを選択します。項目をクリックするとコンボボックスが表示されます。空白を選択した場合、フォームファイルのテキスト変数に設定されたフォントを使用して帳票を出力します。選択されているランタイム種別によって選択できるフォントが違います。“Cast/Collect”が選択されている場合は、フォントマネージャに登録されている固定フォントと埋め込みフォントから選択できます。“FormPrintStage”が選択されている場合は、OS に登録されている TrueType フォントから選択できます。

[出力データ]

テキスト変数に出力する文字列を入力します。項目をクリックをするとテキストボックスが表示されます。文字列が入力された場合、自動的にチェックボックスが付与されます。Unicode の文字も入力することができます。

<< 注意 >>

既存の RPX ファイルを編集する際、登録されているテキスト変数を削除する機能はありません。登録されているテキスト変数を削除したい場合は、削除したいテキスト変数のチェックボックスのチェックを外した状態で上書き保存を行ってください。

■ [保存] ボタン

RPX ファイルを保存します。RPX ファイル新規作成時は名前をつけて保存ダイアログが起動します。

■ [終了] ボタン

RPX エディタを終了します。

■ツールメニュー

[新規作成]

新規作成ダイアログが起動し、RPX ファイルを新規作成することができます。

[開く]

既存の RPX ファイルをコンボボックスで選択し、選択された RPX ファイルを開きます。

[上書き保存]

編集した RPX ファイルを上書き保存します。RPX ファイル新規作成時は選択できません。

[名前をつけて保存]

名前をつけて保存ダイアログが表示され、RPX ファイルに名前をつけて保存します。

[終了]

RPX エディタを終了します。

[フォント一括設定]

フォント一括設定ダイアログが起動し、複数のフォントを一括で設定することができます。

[フォーム追加]

フォーム追加ダイアログが起動し、作業フォルダ内の別のフォームを RPX ファイルに追加することができます。RPX ファイル新規作成時は選択できません。

[テキスト変数追加]

テキスト変数追加ダイアログが起動し、選択されたテキスト変数が追加されます。RPX ファイル新規作成時は選択できません。

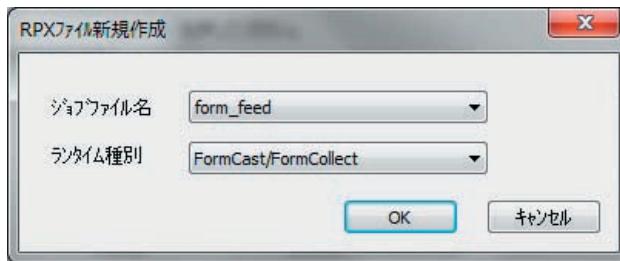
[バージョン情報]

バージョン情報ダイアログが起動し、バージョン情報を確認することができます。

3-3-2. 新規作成ダイアログ

ツールメニューの [ファイル]-[新規作成] を押下すると、新規作成ダイアログが表示され、RPX ファイルを新規作成することができます。

図：新規作成ダイアログ



RPX ファイルを新規作成するためのダイアログです。RPX ファイルの作成にはジョブファイルとランタイム種別の指定が必要です。

[ジョブファイル名]

RPX エディタ起動時に Design マネージャで選択された作業ディレクトリ内に登録されているジョブファイルの一覧から目的のジョブファイルを選択します。

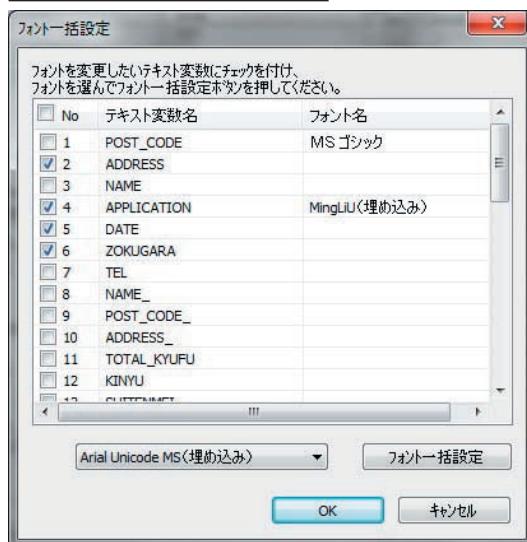
[ランタイム種別]

“FormCast/FormCollect”, “FormPrintStage” のどちらかを選択します。お使いのランタイム製品に合わせて選択してください。

3-3-3. フォント一括設定ダイアログ

ツールメニューの [オプション]-[フォント一括設定] を押下すると、フォント一括設定ダイアログが表示され、RPX ファイルを新規作成することができます。

図：フォント一括設定ダイアログ



フォント一括設定ダイアログでは、複数のテキスト変数のフォントを一括で設定することができます。フォント一括設定の手順は以下の通りです。

1. フォントを変えたいテキスト変数にチェックを入れます
2. コンボボックスから変更したいフォントを選択します
3. [フォント一括設定] ボタンを押下します
4. [OK] ボタンを押下します

[フォント] コンボボックス

コンボボックスから一括設定したいフォントを選択します。

[フォント一括設定] ボタン

チェックの付いている全てのテキスト変数のフォントを [フォント] コンボボックスで選択されているフォントに変更します。

■テキスト変数リスト

[No]

テキスト変数の通し番号です。フォント設定を変更するテキスト変数のチェックボックスにチェックをつけます。リストタイトル上にあるチェックボックスを押下すると、全てのチェックボックスに対してチェックをつけることができます。

[テキスト変数名]

RPX ファイル編集ダイアログに現在表示されているテキスト変数が表示されます。

[フォント名]

現在のフォントを表示します。

[OK] ボタン

フォント設定の変更を反映してフォント一括設定ダイアログを終了します。

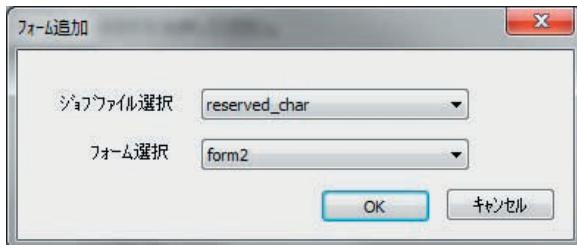
[キャンセル] ボタン

編集内容を破棄してフォント一括設定ダイアログを終了します。

3-3-4. フォーム追加ダイアログ

ツールメニューの [オプション]-[フォーム追加] を押下すると、フォーム追加ダイアログが表示され、すでに保存済みの RPX ファイルに対して、保存されていないフォームを追加することができます。

図：フォーム追加ダイアログ



[ジョブファイル選択]

作業ディレクトリ内に登録されているジョブファイル一覧から目的のジョブファイルを選択します。

[フォーム選択]

[ジョブファイル選択] コンボボックスで選択されているジョブに登録されているフォームから追加したいフォームを選択します。

3-3-5. テキスト変数追加ダイアログ

ツールメニューの [オプション]-[テキスト変数追加] を押下すると、フォーム選択ダイアログが表示されます。テキスト変数を追加するフォームを選択しテキスト変数取得ボタンを押下すると、テキスト変数追加ダイアログが表示され、RPX ファイルに保存されていないテキスト変数を追加することができます。

図：フォーム選択ダイアログ



[ジョブファイル選択]

作業ディレクトリ内に登録されているジョブファイル一覧から目的のジョブファイルを選択します。

[フォーム選択]

[ジョブファイル選択] コンボボックスで選択されているジョブに登録されているフォームから追加するテキスト変数が登録されているフォームを選択します。

[テキスト変数取得] ボタン

[フォーム選択] コンボボックスで選択されているフォームについてテキスト変数追加ダイアログを表示します。

図：テキスト変数追加ダイアログ



■テキスト変数リスト

[テキスト変数名]

追加可能なテキスト変数を表示します。追加するテキスト変数にチェックをつけます。

[OK] ボタン

RPX ファイル編集ダイアログに戻り、チェックのついているテキスト変数を追加します。

[キャンセル] ボタン

フォーム選択ダイアログに戻ります。

4. 制限事項・注意事項

4-1. 制限事項

- ・リソースプロパティ変更機能は FormPrint 製品で使用することはできません。
- ・リソースプロパティ変更機能では、テキスト変数以外のフォント種別、出力データを設定することはできません。
- ・リソースプロパティ変更機能で指定可能な「出力データ」の最大データ長は 1024 文字です。
また、出力データに改行を含めることはできません。
- ・RPX ファイルのファイル名に 2 バイト文字を使用することはできません。

4-2. 注意事項

- ・RPX ファイルで設定するテキスト変数は、データマップファイルに保存されている必要があります。Form エディタでテキスト変数名を変更したり、テキスト変数の追加を行った場合は、必ず Datamap エディタで対象のテキスト変数をインポートしてデータマップファイルを再保存してください。

Create!Form

リソースプロパティ変更機能 第2版

発行日 2015年2月
発行者 インフォテック株式会社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25